

機関番号：36301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 年度～2010 年度

課題番号：20520268

研究課題名（和文） アジア系アメリカ文学におけるエスニシティと環境的想像力の研究

研究課題名（英文） A Study of Ethnicity and Environmental Imagination in Asian American Literature

研究代表者

吉田 美津 (YOSHIDA MITSU)

松山大学・経営学部・教授

研究者番号：80140622

研究成果の概要（和文）：本研究は、エスニシティと環境的想像力の関連を考察するものである。アジア系アメリカ文学におけるアメリカの自然と風景の描写は、彼らの移民の歴史と不可分に関連し、彼らのエスニシティはコミュニティとしての民族的帰属場所の表象として描出される。エスニシティと環境的想像力は共同体の空間と彼らの歴史によって培われる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the research is to examine the relationship between ethnicity and environmental imagination. The portrayal of American nature and landscape in Asian American literature is closely connected with Asian American immigrant history, and their ethnicity is represented as a sense of belonging to their community. Ethnicity and environmental imagination are cultivated in a communal space and a specific history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：アメリカ文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：アジア系アメリカ文学 中国系アメリカ文学 エスニシティ コミュニティ  
チャイナタウン 環境的想像力

## 1. 研究開始当初の背景

（1）アジア系アメリカ文学研究において従来、社会的、心理学的に主流文化に抵抗あるいは同化するアイデンティティ形成を論じる研究が主流であり、文化移動や文化混交を環境的想像力として捉えようとする研究は少ない。アジア系の環境的想像力を研究テーマとして意識したのは中国系作家 Maxine Hong Kingston の作品を論じた論文「金山を越えて—キングストンの『アメリカの中国人』」（『新しい風景のアメリカ』所収、南雲

堂、2003 年）の執筆である。移民として入国したアジア系が彼らの集団的経験や記憶を背景に構築したアメリカの風景は、ヨーロッパ系の移民の描く風景とは異なること、そして彼らの場所の感覚とその表象も異なることを理解した。曾祖父から父親に至るアメリカでの過酷な移民体験を記した『アメリカの中国人』（*China Men*, 1980）は、Frederick Jackson Turner や Leo Marx などの研究によってアメリカに綿々とある田園主義への反駁となっている。移民の住む「ゲットー」が

環境問題の標的となる事実が、田園主義が人種差別を内包していることを示しており、民族的少数グループの人びとの帰属意識は、風景の捉え方や場所の感覚と密接に関連しているのである。

(2) 多文化主義的社会を背景に誕生した文学作品として全米の大学で読まれた *The Woman Warrior* (1976) において Kingston は、アジア系の人々がローカルな社会から常に影響を受けつつ、同時に政治的経済的なトランスナショナルな力にも影響を受けることを示した。アジア系にとってローカルな場での文化的差異は一貫して人種差別、階級差別そして性差別を顕在化させるものであり、一方でポストモダンな状況は主流文化における彼らの非同一化をオリエンタリズムの知の枠組みに対する抵抗としてグローバルな文脈において捉えることを可能にした。彼らの帰属場所は、ローカルでありまたグローバルでもある文化が交差する場に保持される。そのような柔軟で流動的な彼らの立ち位置を可能にしているものを環境的想像力と定義する。それは環境文学研究者、Lawrence Buell が *The Future of Environmental Criticism* (2005) で Derek Walcott を論じたように、狭義のエコロジーではなく場所の「多音的」で「多地域的」でグローバルな相互作用を可能にする想像力である。本研究は、エスニシティと環境についてのこのような考察を背景にしている。

## 2. 研究の目的

本研究は、移民からアメリカ市民への主体形成の発展的変容を歴史的に捉えてきた今までのアジア系アメリカ文学研究に、Buell のいう「多音的」で「多地域的」でグローバルな環境的想像力の視点を導入することによって、アジア系アメリカ文学研究におけるエスニシティを空間や場所の再構築として捉えなおすことを目的としている。そのために、中国系作家の作品に描かれるサンフランシスコの「チャイナタウン」の異種混交性を考察し、さらにアジア系の作品における多民族化する都市空間を検討し、新しい環境的想像力のあり方を明確にする。

## 3. 研究の方法

(1) 平成 20 年度において、先ずアジア系アメリカ文学研究において環境批評がいか

によって、彼らの異なる環境的想像力を検討した。さらにアメリカ合衆国におけるチャイナタウンの地政学を理解し、アジア系研究の新しい知見を得るため、University of California, Berkeley, the Ethnic Studies Library および Chinese Historical Society of America, Chinese Culture Center of San Francisco などでアジア系研究に関する資料収集を行った。

(2) 平成 21 年度において、前年度に引き続き Amy Tan や Fae Myenne Ng の作品における中国系の共同体であるチャイナタウンがどのようなエスニックな物語空間として描出されているかの検討を深めつつ、ベトナム系作家 Le Ly Hayslip, Andrew Pham, Linh Dinh, Andrew Lam などの作品に、ベトナムとアメリカをめぐる場所の表象として彼らのディアスポラの自我がどのように構築されているか考察した。テーマについての広い知見は、アジア系アメリカ文学研究会やエコクリティシズム研究会での研究・調査活動を通じて得られた。

(3) 平成 22 年度において、中国系作家 Fae Myenne Ng が描く共同体を Kingston や Tan の描写と比較検討することによって、Ng の物語が場所と持つ関係を検討し、その知見を援用しつつ日系作家 Karen Tei Yamashita などの小説におけるエスニシティが都市空間の変化とどのように関連するかを考察した。都市空間の考察は、多民族化していた中西部の視点も重要であり、特に強制収容所で日系移民が創作した俳句などの文芸的作品における自然や風景にも関連している。資料収集活動では、『ユタ日報』など日系アメリカ文学雑誌の文献を収集し、強制収容所における一世と二世の環境をめぐる想像力のあり方を検討することができた。

## 4. 研究成果

(1) 平成 20 年度における主な研究成果: [雑誌論文] 「環境批評とエスニティー—アジア系アメリカ文学研究と「パストラル」の変容」 (*AALA Journal*、アジア系アメリカ文学研究、No 14) において、Maxine Hong Kingston の作品を例とし環境批評がアジア系アメリカ文学研究にどのように有効であるかを考察した。Kingston の描くチャイナタウンにある庭は、中国系移民の歴史の象徴であり、なおかつアメリカの文学的「パストラル」理念の変容と捉えることができる。その変容は、Rob Nixon が「環境主義とポストコロニアル」 (*Postcolonial Studies and Beyond*, 2005, 所収) において「ポストコロニアル・パストラル」と彼が名付ける「環境的二重意識」の

概念を援用するなら、田園的理想とゲットー化した空間が交差する異種混交した新しい空間の出現である。論考は、アジア系アメリカ文学研究において「パストラル」の文学的系譜を多義的かつ批判的に捉えうる可能性を展望したものである。

〔学会発表〕シンポジウム「格差社会とエスニシティの変容」の講師として発表した「『モデル・マイノリティ』神話を脱構築する—Maxine Hong Kingston の作品を中心に」(東北英文学会第 63 回大会)において、黄禍論を対極にした「モデル・マイノリティ」神話をアジア系の主流文化への同化志向を常に刺激する一種の文化的強制力と捉え、中国系作家 Kingston がどのようにこの文化的強制を脱構築しているかを考察した。Kingston が描いているコミュニティのあり方を手がかりに、*The Woman Warrior*, *Tripmaster Monkey* (1989), *The Fifth Book of Peace*(2003)を取り上げ、Kingston が描く場所がエスニシティの生成の場としてのチャイナタウンから脱領土的に他者と共有され、そして想像/創造される新たな場の構築へと変容する過程を考察し、作家が民族的少数グループを分断する「モデル・マイノリティ」神話に対抗する開かれたコミュニティを展望していると論じた。

(2)平成 21 年度における主な研究成果:〔雑誌論文〕「場所の表象としてのチャイナタウン—*The Joy Luck Club* における物語空間」(『松山大学論集』第 2 2 巻 1 号)において、中・四国アメリカ学会での発表原稿をもとに、Amy Tan の *The Joy Luck Club* のチャイナタウンが、母親と娘の「血」の絆の重要性を際立たせるため物語空間としてどのように機能しているかを論じた。作品において、母と娘の世代差における葛藤が中国的なるものとアメリカ的なるものの文化的差異をめぐる葛藤として描かれており、前近代的で封建的な「東洋」の母親たちの物語が異国風に他者化されてゆく過程が、アメリカ社会で周縁化されるチャイナタウンと重なる意味を展開した。この共同体は具体的な生活の場であるよりは、母親たちの中国の物語を娘たちの自立の物語に包摂してゆくビルドゥングスロマンの空間として立ち上がってくる。中国系として自立するという困難な作業は、母と娘の生物学的な絆を背景に自己発見の挫折や失敗は抑圧されている。Tan のチャイナタウンは、娘たちの成長物語が歴史的時間の干渉しない空間で完結するための背景となっていると結論付けた。

〔学会発表〕「中国系アメリカ文学における「チャイナタウン」の場所の表象」(中・四国アメリカ学会第 3 7 回年次大会)において、中国系アメリカ文学の背景となるチャイ

ナタウンが、中国系の文化と西洋的オリエンタリズムの葛藤と調整によって構築される文化表象であることを、Amy Tan の *The Joy Luck Club* と Fae Myenne Ng の *Bone* において考察し、場所の表象としてその文学的多義性を展開した。

(3)平成 22 年度における主な研究成果:〔雑誌論文〕「空間的表象としてのチャイナタウン—『骨』における移民の歴史と家族の物語」(『中・四国アメリカ研究』第 5 号)において Fae Myenne Ng によるチャイナタウンの新しい捉えかたを展開した。これまで論じてきた Kingston と Tan と異なり Ng は、共同体を中国系アメリカ人の新たな自己発見のための背景とはしない第三のあり方を志向している。それは、Ng が中国という起源の地を失った家族の喪失の物語をまさに骨格をなぞるようにチャイナタウンの地形図として描いているからである。Lisa Lowe が *Immigrant Acts* (1996) で『骨』における共同体をフーコーの「混在郷 (ヘテロトピア)」の概念を利用し、国家的な管理や序列化に抵抗する力を持つと論じている点に注目し、物語が次女の自殺へと記憶を過去にさかのぼる形をとっている点や登場人物たちの輪を描くような円環の移動の意味を考察した。Ng の特徴的な語りは、移民の成功物語である直線的な時間軸に沿った「発展的ナラティブ」に対抗する語りであると結論付けた。

『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』(共著、世界思想社、近刊)の「ヴェトナム系アメリカ文学—ヴェトナム戦争を超えて」において、ヴェトナム系作家 Kien Nguyen, Andrew Pham, Le Ly Hayslip, Lan Cao, Dao Strom などを取り上げ、彼らの作品におけるディアスポラの要素がアメリカに入国した時期や属する社会階層でどのように異なるか論じた。『オルタナティブ・ヴォイスを聴く—エスニシティとジェンダーで読む現代英語環境文学 103 選』(共著、音羽書房鶴見書店、近刊)において概論「アジア系の文学とアメリカの自然と風景」で中国系、日系、そしてベトナム系による文学作品に見る自然と風景との異なる関係を論じた。さらに作家と作品、そしてその評価と研究についての概説「カウンターカルチャーの場所」(Kingston, *Tripmaster Monkey*)、「家族史としてのチャイナタウン」(Ng, *Bone*)、「ヘテロポリス・ロサンゼルス」(Karen Tei Yamashita, *Tropic Orange*)等を執筆し、アジア系アメリカ文学における作家の環境的想像力がどのようにエスニシティと関連しているかを論じた。

〔学会発表〕「中国系アメリカ文学に見る内なる他者」(シンポジウム「アジア系アメリカ文化・文化における Interethnic

Encounters」の司会兼講師、多民族研究学会第14回全国大会)において Kingston の *Tripmaster Monkey* に見るアフリカ系文化に憧れる主人公の持つ変幻自在なアイデンティティの意味を論じた。作品の背景には、Kingston が白人読者に迎合していると批判した中国系男性作家 Frank Chin との「ジェンダー論争」があったこと、さらに Chin がアフリカ系作家 Ishmael Reed との「アフロ・アジア」の協力関係を持っていたことの意味を考察し、Kingston が描く戦闘的な主人公 Wittman Ah Sing の平和主義者への変貌は、民族的少数グループの問題意識が、ジェンダーで異なることを示すと同時に、アジア系の新たなヒーロー像を提示することで共闘の可能性を暗示している点を論じた。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計3件)

- ① 吉田美津「空間的表象としてのチャイナタウン—『骨』における移民の歴史と家族の物語」『中・四国アメリカ研究』、中・四国アメリカ学会誌、査読有、第5号、2011、pp. 1-16.
- ② 吉田美津「場所の表象としてのチャイナタウン—*The Joy Luck Club*における物語空間」『松山大学論集』、松山大学紀要、査読無、第22巻第1号、2010、pp. 85-103.
- ③ 吉田美津「環境批評とエスニシティ—アジア系アメリカ文学研究と「パストラル」の変容」*ALA Journal*, アジア系アメリカ文学研究会誌、査読無、No. 14, 2009, pp. 37-49.

[学会発表] (計3件)

- ① 吉田美津「中国系アメリカ文学に見る内なる他者」(シンポジウム「アジア系アメリカ文学・文化における Interethnic Encounters」司会兼講師 吉田美津)、多民族研究学会14回全国大会、2010年8月7日、於：国土館大学。
- ② 吉田美津「中国系アメリカ文学における「チャイナタウン」の場所の表象」、中・四国アメリカ学会第37回年次大会、2009年11月28日、於：安田女子大学。
- ③ 吉田美津「「モデル・マイノリティ」神話を脱構築する—Maxine Hong Kingston の作品を中心に」(シンポジウム「格差社会とエスニシティの変容」)、東北英文学会(日本英文学会東北支部)第63回大会、2008年11月24日、於：東北学院大学土樋キャンパス。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉田 美津 (YOSHIDA MITSU)  
松山大学・経営学部・教授  
研究者番号：80140622